

## 那覇市小禄金城公園（予定地）の植物

新城 和治<sup>(1)</sup>・日越国昭<sup>(2)</sup>

(<sup>(1)</sup>琉球大学教育学部、<sup>(2)</sup>沖縄県立博物館)

Vegetation of Kinjoh Park (Planned Area) at Oroku, Naha City, Okinawa Island

Kazuharu SHINJO<sup>(1)</sup> and Kuniaki HIGOSHI<sup>(2)</sup>

(1) Biological Institute, College of Education, University of the Ryukyus

(2) Okinawa Prefectural Museum

### はじめに

調査地は、那覇市小禄の字金城にある海拔36.0mを最高所とする岡である。付近一帯は、米軍基地が解放され、那覇市によって土地区画整理事業が実施されており、同事業の一環として、本調査地は公園にする予定となっている。

この調査は、植物の現況を生かした公園づくりのために、那覇市教育委員会からの依頼によって、同公園予定地の相観による現存植生図の調査、植生調査、植物相の調査を昭和61年11月に実施したものである。本報告を草するに当たり、調査に同行し協力していただいた同教育委員会の具志真孝氏に対し深甚なる謝意を表する。

### I. 調査地の概況

調査地は、那覇市の南部小禄地区の西に位置している。この米軍の解放地は東、南、北側は市街地になり、西側は国道331号線を挟んで自衛隊基地、那覇空港、そして東シナ海となっている。地形的にみると、那覇市の市街地より一段高くなっている。北側の海拔47.03mを最高所とする琉球石灰岩の断層崖から徐々に南側に低くなっている。

同解放地は、解放前は米軍の住宅が点在し芝生が敷きつめられていた。本地域は、区画

整理により幅30mの那覇市内環状線、小・中・高校の各学校、3つの公園や配水場その他の公共施設、住宅地とする事業を現在実施中である。

公園予定地は、同解放地のほぼ中央部にあたり、金城中学校と那覇西高等学校に隣接している。面積は2haで、東西南北に角をもつ正方形をしており、北側と東側はやや平坦であるが、その他の部分はほぼ三角形をした平坦面より14~15mほど高い岡になっている。地質は、新生代第三紀の泥板岩および砂岩となる。

岡の最高所には、金城御嶽があり昭和45年7月29日建立の「金城御嶽神」の碑がたてられている。具志真孝氏の事前調査によると、戦前は南側の尾根の部分に「殿」、「殿の前広場」および「火の神」があったという。

植生的にみると、岡の尾根部は戦後米軍によって植えられたと思われるモクマオウが群落をなし、斜面部は回復したと思われる常緑広葉樹林に覆われ、戦前から御嶽林の一部であったと思われるリュウキュウマツの大木が点在している。また、北側と東側の斜面の一部は、以前に土砂が削り取られたが現在は草地になっている。南西斜面には畠と草地がみられる。平坦部分は、土地区画整理事業によって整地され裸地になっているが、一部には植物がみられるようになってきた。

## II. 調査方法

### 1. 現存植生図調査

現存植生図は、調査地域内を踏査して相観によって植物群落を識別し、那覇市が同区画整理事業のために発行した2000分の1の地形図に群落の範囲を記入して作成した。

### 2. 植生調査

植生調査は、調査地内で識別された植物群落の中で可能な限り均質な林分を選び、最小面積以上の調査区を設置した。沖縄の高木からなる森林は、一般に樹冠をつくる一番高い層（高木層）、その次に高く樹冠に隠れるように生育する層（亜高木層）、さらに低い灌木の層（低木層）、そして一番低い草本の層（草本層）の4つの階層構造が識別できる。具体的調査にあたっては、調査区内で各階層を識別しその高さを測定するとともに、識別した各階層ごとに出現する全種類について以下に示す被度と群度を測定した。同時に調査区の面積に対する各階層の植物の葉群の被覆率、すなわち各階層の植被率を測定した。また、各調査区において植物群落に影響をおよぼすと思われる海拔高度、傾斜方位、傾斜角度、風当たり、日当たり、基盤岩類、土壤およびその乾・湿の度合などを現地で判定可能な限

り記録した。被度と群度については、Braun-Blanquet (1964) の全推定法に基づいて以下の基準で行った。

被度：調査区内の植物の種ごとの占有率を6段階で表示したもの。

- 5：調査面積の75%～100% ( $3/4 \sim 1$ ) を占めている。
- 4：調査面積の50%～75% ( $1/2 \sim 3/4$ ) を占めている。
- 3：調査面積の25%～50% ( $1/4 \sim 1/2$ ) を占めている。
- 2：調査面積の10%～25% ( $1/10 \sim 1/4$ ) を占めている。
- 1：調査面積の1%～10% ( $1/100 \sim 1/10$ ) を占めている。
- +：調査面積の1% ( $1/100$ ) 以下を占めている。

群度：調査区内で個々の植物がどのように生育しているかを表す測度で  
次のように区分する。

- 5：調査区内にカーペット状に生育している。
- 4：カーペット状に穴があいているような状態、  
または大きなまだら状に生育しているもの。
- 3：まだら状、群状に生育しているもの。
- 2：小群状に生育しているもの。
- 1：単独に生えているもの。

### 3. 植物相調査

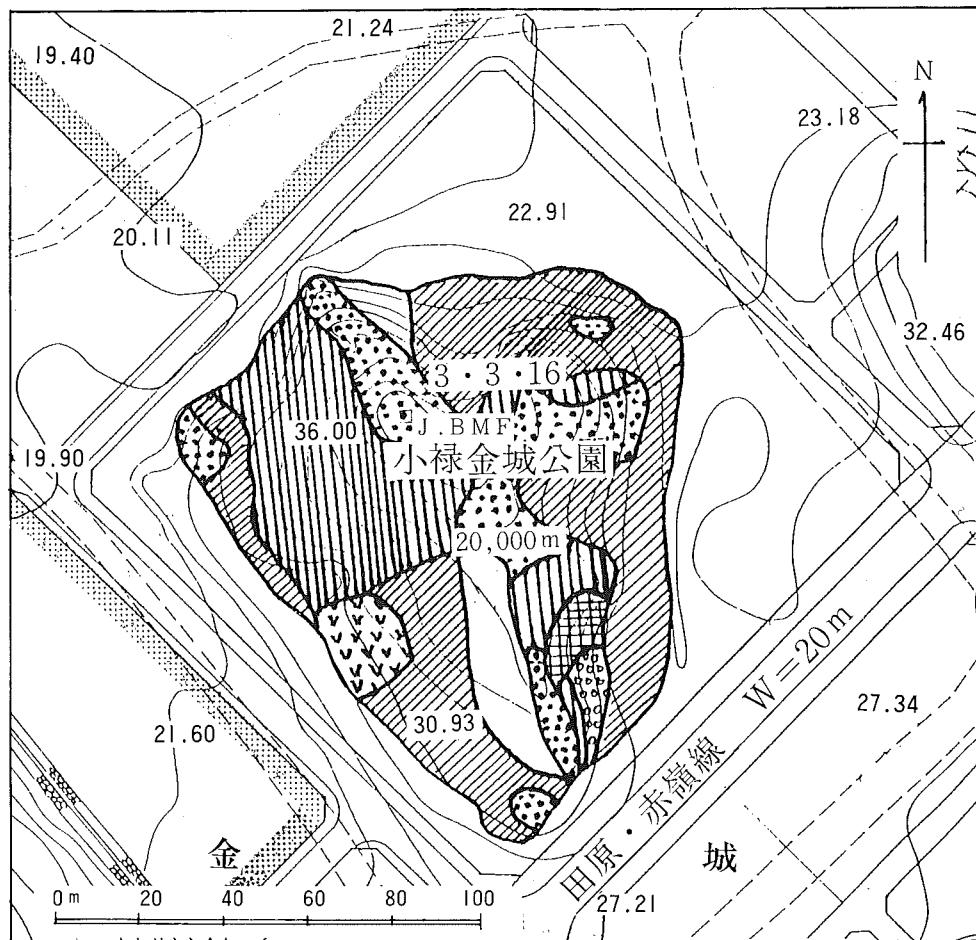
植物相の調査は、調査地域内を踏査して出現した植物の種類を記録して行った。疑問種について持帰り、同定し植物目録を作成した。

## III、調査結果

### 1. 現存植生図

現存植生図は、植物群落の現況を地形図に示したもので、純粹の科学的研究や農業、林業への利用、ある地域の開発のための立地判断、それに自然保護・管理・復元など、特定の地域に関し多岐にわたるあらゆる計画の基礎図として作成される。

調査の結果は、図1に示すとおりである。以下その詳細について、簡単に説明する。



凡例

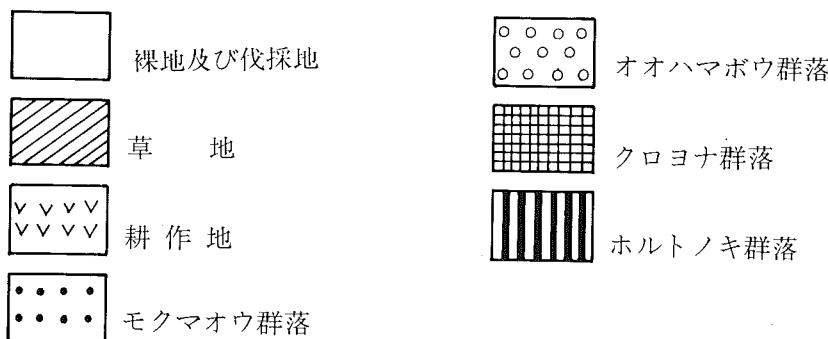


図1 那覇市首里小禄金城公園（予定地）の植生図

#### (1)、裸地および伐採地

岡状の部分を取り囲むように広い面積を占めている。これは、区画整理のための道路建設・整地のためである。また、南西尾根の部分は、字の方々によって「殿」およびその前広場を掃除する目的で伐採したものである。

#### (2)、草地

人為の搅乱がこれまで大きかった地域の目安である。草地は、東側斜面と南西側斜面の放棄畑、北側斜面と東側斜面の土砂が削り取られた部分、それに区画整理のため整地された部分の三つに分けられる。

#### (3)、モクマオウ群落

戦後まもない頃植えたと思われるモクマオウの群落が、尾根の高い部分と下部にみられる。これはこの地域の環境が乾燥していることの一つの指標となりうる。

#### (4)、畑

南西部に現在約400m<sup>2</sup>位耕作している畑がある。畑には、ジャガイモ、サトイモが植えられている。周囲にはスギ、バナナ、マンゴーなどが植栽されている。

#### (5)、常緑広葉樹林

西側、北側、南東側に発達している。この部分は、本地域でより人為の搅乱が小さいか、植生の回復が速い地域にみられる。そのうち西側が一番面積が広くまた大木が多い。北側は断片が残ったもので、南東側にはクロヨナ群落とオオハマボウ群落がみられる。本地域の公園化に際しては、この常緑広葉樹林を核として計画することが望ましい。

## 2. 植生

#### (1)、草地

草地については、時間の関係で今回の調査では特に南斜面の放棄畑と思われる部分についてのみ調査した。ここでは、チガヤ、ヒメオニササガヤ、リュウキュウヒメアブラススキの各群落が識別できそれを調査したのでこれらをまとめて報告する。各群落はチガヤ、ヒメオニササガヤ、リュウキュウヒメアブラススキが被度・群度とも5でもっとも優占し、2~5種出現する。チガヤ、タチシバハギは3群落に出現し、他にネズミノオ、マルバダケハギ、コゴメスゲが出現する。この3群落の他にススキ群落、タチアワユキセンダングサ群落、オヒシバ群落などがみられる。

チガヤ群落

調査地番号	7	8
海抜	30m	
傾斜方位	s 70w	
傾斜角度	10°	
調査面積	1 m <sup>2</sup>	
草本層 高さ	1 m	
草本層 植被率	90%	
出現種数	3	4
草本層		
ヒメオニササガヤ	5.5	5.5
タチシバハギ	1.2	+·2
ネズミノオ	+	1.2
チガヤ		+·2



図2. 調査地南部の草地

チガヤ群落

調査地番号	9	10
海拔	30°	
傾斜方位	s 70w	
傾斜角度	10°	
調査面積	1 m <sup>2</sup>	
草本層 高さ	1 m	
草本層 植被率	90%	
出現種数	2	2
草本層		
チガヤ	5.5	5.5
タチシバハギ	1.2	1.2

リュウキュウヒメアブラスキ群落

調査地番号	11	12
海抜	30m	
傾斜方位	s 70w	
傾斜角度	10°	
調査面積	1 m <sup>2</sup>	
草本層 高さ	1 m	
草本層 植被率	90%	
出現種数	4	3
草本層		
リュウキュウヒメアブラスキ	5.5	5.5
チガヤ	1.2	2.2
マルバダケハギ	1.2	
コゴメスゲ	1.2	
タチシバハギ		1.2

## (2) モクマオウ群落

本群落は、高さが17~19mあり遠くからでも目だつ存在である。出現種数は、3つの調査区で61種あり、各調査区では29~40種出現した。高木層はモクマオウがもっとも優占し、他にリュウキュウマツ、チシャノキ、タイワンウオクサギ、ハマイヌビワ、ソウシジュなどが出現する。亜高木層には16種が出現し、タイワンウオクサギ、シマグワ、オオムラサキシキブなどが出現在頻度・優占度とも高い。低木層は36種出現し、ネズミモチ、シマグワ、イヌビワ、カニクサなどが優占する。草本層は46種出現するが、植被率は20~40%であり発達していない、ゲットウがもっとも優占する。この群落は乾燥している尾根に立地していることと、この群落の特性として常に乾燥した状態にあり全体的な植被率が低いため、群落内にはゲットウ、ホウロクイチゴ、ノアサガオ、アカメガシワ、タチアワユキセンダングサ、ススキ、ヘクソカズラ、ムラサキカタバミなど乾燥を好む植物や陽地性の植物が出現している。

### モクマオウ群落

調査地番号	4	5	6	高木層			
海抜			35m	モクマオ	3・3	4・4	2・2
傾斜方位	N60W	N40W	S50E	リュウキュウマツ	2・2		1・1
傾斜角度	20	20	15	チシャノキ			1・1
調査面積	225	225	225	ソウシジュ			1・1
高木層 高さ	17	19	17	ハマイヌビワ			1・1
高木層 植被率	50	60	50	タイワンウオクサギ			1・1
亜高木層 高さ	8	7	6	亜高木層			
亜高木層植被率	25	15	60	タイワンウオクサギ	1・2	2・2	1・2
低木層 高さ	4	4	3	シマグワ	2・3	1・2	1・2
低木層 植被率	70	50	60	オオムラサキシキブ	1・2	+	2・2
草本層 高さ	0.8	0.7	0.7	オキナワシャリンバイ	1・1		+
草本層 植被率	20	40	20	ハゼノキ		+	+
出現種数	44	39	47	アコウ	2・2		
				ヤブニッケイ	2・2		



図3. 東側斜面のモクマオウ群落

センダン	1・2		ホウライチク	1・2
クチナシ	+		ギョクシンカ	1・2
モクマオウ	+		センダン	+・2
ホソバムクイヌビワ		1・1	コバノハスノハカズラ	+
オオバギ		+	ノアサガオ	+
ホルトノキ		+	タイワンアキグミ	+
モクタチバナ		+	チシャノキ	+
ネズミモチ		+	草本層	
タイワンアキグミ		+	ゲットウ	2・3
低木層		+	ヤブニッケイ	2・3 1・2
シマグワ	2・2	3・3	カニクサ	1・2 +・2
ネズミモチ	3・3	2・2	ナガミボチョウジ	+・2 +・2 +・2
イヌビワ	2・3	1・2	シマグワ	+・2 +・2 +・2
カニクサ	2・3	+・2	ネズミモチ	+・2 +・2 +・2
トベラ	1・2	1・2	トベラ	+・2 +・2 +・2
ナガミボチョウジ	1・2	+・2	ヤブラン	+・2 +・2 +・2
オオムラサキシキブ	1・2	+	エダウチチヂミザサ	+ +・2 +・2
ヤブニッケイ	+・2	1・2	ホルトノキ	+ +・2 +・2
ホルトノキ	+・2	+・2	クワズイモ	+・2 + +
クチナシ	+・2	+・2	クスノハガシワ	+ + +・2
クスノハガシワ	+	+	ホシダ	+ + +
モクタチバナ	+・2	+	ツルモウリンカ	+ + +
カキバカンコノキ	+・2	+	オオムラサキシキブ	+ + +
タイワンウオクサギ	+・2	+	ツワブキ	+・2 2・3
アカテツ	+	+	イヌビワ	+・2 1・2
フクマンギ	+	+	カキバカンコノキ	+ +
ハマサルトリイバラ	+	+	ハマヒサカキ	+ +
リュウキュウボタンズル	+・2		ホウロクイチゴ	+ +
ゲッキツ	+	+・2	モクタチバナ	+・2 +
オキナワシャリンバイ	+		ギョクシンカ	+ +・2
オオシマコバンノキ	+		ゲッキツ	+ +
ハマイヌビワ		+	オキナワシャリンバイ	+ +
サルカケミカン	+・2	+	クチナシ	+・2
ハゼノキ	+		コバノハスノハカズラ	+ +・2
マサキ	+		ハマサルトリイバラ	+ +・2
ヘクソカズラ		+	ショウロウウクサギ	+
フカノキ		+	オニヤブソテツ	+
アカメガシワ		+	コクテンギ	+
アカギ		+	アカギ	+

ススキ	+	ムラサキカタバミ	+
コゴメスゲ	+	ノアサガオ	+・2
ソテツ	+	アカメガシワ	+・2
リュウキュウボタンズル	+	タチアワユキセンダングサ	+・2
オオシマコバンノキ	+	タイワンアキグミ	+・2
アコウ	+	センダン	+
ヘクソカズラ	+	ギンネム	+
ツルソバ	+		

### (3)、常緑広葉樹林

#### A) オオハマボウ群落

オオハマボウ群落は、沖縄では一般に海岸のアダン群落の後方すなわち陸側に立地している。本地域では、南東斜面に小面積ありそれを調査したので報告する。本群落の調査面積は100m<sup>2</sup>で、出現種数が28種、群落の高さは6mである。亜高木層・低木層・草本層の3つの階層が識別できる。亜高木層は、植被率80%で鬱蒼と茂り、オオハマボウとシマグワの2種が出現し特にオオハマボウが被度・群度とも5で優占する。低木層は、モクタチバナ、ネズミモチ、シマグワなど10種出現する。草本層は、チトセラン、ナガミボチョウジ、エダウチチヂミザサなど27種出現する。



図4. 調査地東側のオオハマボウ群落

#### オオハマボウ群落

調査地番号 2、海拔 35m、傾斜方位 S70E、傾斜角度 20度

亜高木層 ( 高さ 6 m、植被率 80 % )			
オオハマボウ	5・5	シマグワ	1・1
低木層 ( 高さ 2.5 m、植被率 15 % )			
モクタチバナ	1・2	ネズミモチ	1・2
シマグワ	1・2	ヤブニッケイ	1・2
オオハマボウ	+・2	イヌビワ	+・2
ナガミボチョウジ	+・2	オオシマコバンノキ	+
ホルトノキ	+	コクテンギ	+

草本層 ( 高さ 0.8 m、植被率 30 % )			
チトセラン	2・2	ナガミボチョウジ	1・2
エダウチチヂミザサ	1・2	クロヨナ	+・2
モクタチバナ	+・2	ヤブニッケイ	+・2
シマグワ	+・2	ギョクシンカ	+・2
オオハマボウ	+・2	クスノハガシワ	+・2
ゲットウ	+・2	イヌビワ	+
ネズミモチ	+	フクマンギ	+
トベラ	+	オオムラサキシキブ	+
オオシマコバンノキ	+	タブノキ	+
オオバギ	+	カキバカンコノキ	+
オキナワシャリンバイ	+	ホルトノキ	+
クワズイモ	+	カニクサ	+
ノアサガオ	+	リュウキュウボタンズル	+
ハマスゲ	+		

### B) クロヨナ群落

本群落は、前記のオオハマボウ群落に隣接する。調査面積は100m<sup>2</sup>で、樹高8.5mあり、高木層以下4つの階層が識別できる。出現種数は39種であった。高木層は植被率90%で、クロヨナ、シマグワ、コクテンギ、アコウ、オオシマコバンノキの5種が出現し、クロヨナが優占する。亜高木層は、モクタチバナなど8種が出現する。低木層は21種、草本層は26種出現するがいずれも植被率は低い。

#### クロヨナ群落

調査地番号 1、海拔 35 m、傾斜方位 S70E、傾斜角度 30度

高木層 ( 高さ 8.5 m、植被率 90 % )			
クロヨナ	4・4	シマグワ	2・2
コクテンギ	2・2	アコウ	2・2
オオシマコバンノキ	1・1		

亜高木層 ( 高さ 4.5 m、植被率 40 % )			
モクタチバナ	2・2	クスノハガシワ	1・2
ハマイヌビワ	1・2	クチナシ	1・2
シマグワ	1・2	ホルトノキ	+・2
イヌビワ	+・2	リュウキュウボタンズル	+

低木層 (高さ 2m、植被率 40%)

ナガミボチョウジ	2・2	リュウキュウチク	1・2
カニクサ	1・2	モクタチバナ	1・2
クチナシ	+・2	シマグワ	+・2
ヤブニッケイ	+・2	イヌビワ	+・2
ギョクシンカ	+・2	ホルトノキ	+・2
オオムラサキシキブ	+	タイワンウォクサギ	+
ネズミモチ	+	オオシマコバンノキ	+
カキバカンコノキ	+	アカテツ	+
タブノキ	+	ハマイヌビワ	+
ガジュマル	+	クスノハガシワ	+
ゲッキツ	+		

草本層 (高さ 0.7m、植被率 30%)

ナガミボチョウジ	2・2	ゲットウ	1・2
チトセラン	1・2	モクタチバナ	+・2
ホルトノキ	+・2	クロヨナ	+・2
リュウキュウイノモトソウ	+・2	ヤブニッケイ	+・2
ホコシダ	+・2	クワズイモ	+・2
ハモオモト	+・2	クチナシ	+・2
シマグワ	+	カニクサ	+
イヌビワ	+	オキナワシャリンバイ	+
ハマサルトリイバラ	+	ゲッキツ	+
クスノハガシワ	+	フクマンギ	+
オオイタビ	+	オオシマコバンノキ	+
クワノハエノキ	+		

C) ホルトノキ群落

この群落は、本地域の西側斜面の大部分を占め、本地域で最も発達した森林である。先に報告した「上の毛」の常緑広葉樹林と同質のものである。調査面積300m<sup>2</sup>の調査区を1カ所設置して調査した。調査の結果は下表に示す。群落の高さは10mで、高木層・亜高木層・低木層・草本層の4つの階層が識別でき、46種出現した。高木層は9種が出現し、植被率は80%で、ホルトノキ、シマグワ、カキバカンコノキが被度・群度とも3で優占する。亜高木層は高さ5mで、14種出現するが被度・群度とも低く、植被率29%であり発達していない。低木層は、高さ2.5mで33種出現し、植被率70%でナガミボチョウジ、ギョクシンカ以外は各種とも被度・群度が低い。草本層は、31種出現するが植被率40%であり発達していない。

ホルトノキ群落

調査地番号 3、 海抜 35m、 傾斜方位 S40W、 傾斜角度 10度

高木層 ( 高さ 10m、 植被率 80 % )			
ホルトノキ	3・3	カキバカンコノキ	3・3
シマグワ	3・3	ヤブニッケイ	2・2
タイワンウオクサギ	3・3	リュウキュウマツ	2・1
ソウシジュ	2・1	オオバギ	1・1
タブノキ	1・1		
亜高木層 ( 高さ 5m、 植被率 20 % )			
ホルトノキ	1・2	ハマイヌビワ	1・2
ネズミモチ	1・1	コクテンギ	1・1
アコウ	1・1	オオムラサキシキブ	+
センダン	+	ハゼノキ	+
オオバギ	+	カキバカンコノキ	+
タイワンウオクサギ	+	ヤブニッケイ	+
シマグワ	+	ショウロウクサギ	+
低木層 ( 高さ 2.5m、 植被率 70 % )			
ギョクシンカ	2・3	ナガミボチョウジ	2・3
ネズミモチ	1・2	イヌビワ	1・2
クチナシ	1・2	アカギ	1・2
カニクサ	1・2	オオバギ	1・2
クワズイモ	1・2	シマグワ	+
クスノハガシワ	+	ホルトノキ	+
トベラ	+	ホウライチク	+
ショウロウクサギ	+	マサキ	+
タイワンウオクサギ	+	ギンネム	+
ハマイヌビワ	+	モクタチバナ	+
カキバカンコノキ	+	ハゼノキ	+
タブノキ	+	オオムラサキシキブ	+
コクテンギ	+	センダン	+
サンゴジュ	+	アコウ	+
ハマヒサカキ	+	ハマサルトリイバラ	+
ゲッキツ	+	アカテツ	+
ヤブニッケイ	+		
草本層 ( 高さ 0.8m、 植被率 40 % )			
ナガミボチョウジ	2・3	クワズイモ	1・2
ギョクシンカ	1・2	ゲットウ	1・2

カニクサ	+ · 2	オオシマコバンノキ	+ · 2
タイワンアキグミ	+ · 2	ホシダ	+ · 2
ホルトノキ	+ · 2	ツルソバ	+ · 2
カキバカンコノキ	+ · 2	ネズミモチ	+ · 2
モクタチバナ	+ · 2	タブノキ	+ · 2
エダウチチヂミザサ	+ · 2	ハチジョウシダ	+ · 2
リュウキュウイノモトソウ	+ · 2	イヌビワ	+ · 2
トベラ	+ · 2	アカギ	+ · 2
ヤブニッケイ	+	クスノハガシワ	+
マサキ	+	オオムラサキシキブ	+
コクテンギ	+	ゲッキツ	+
ショウロウクサギ	+	クワノハエノキ	+
オニヤブソテツ	+	ホウロクイチゴ	+
ハマサルトリイバラ	+		

### 3. 植物相

昭和61年11月に行われた現地調査において、生育が確認されたものに基づいて本調査地における植物目録を作成した。本目録の学名および和名、配列は、初島住彦著「琉球植物誌 1975」、初島住彦・天野鉄夫著「琉球植物目録 1977」、島袋敬一著「琉球シダ植物目録 1981」にしたがった。今回の調査で確認されたシダ植物以上の維管束植物の数は、57科112属130種（亜種、変種、品種、園芸種を含む）で、その分類別統計は表1のとおりである。これには自生種と畑に植えられているもの、およびその周辺に植栽されているも

表1. 那覇市小禄金城公園（予定地）に生育する植物の分類別統計。

	科	属	種	亜種	変種	品種
シダ植物	5	5	7			
種子植物						
裸子植物	3	3	3			
被子植物	49	104	98	1	16	5
双子葉植物	42	79	71	1	14	5
離弁花類	28	46	45	1	6	4
合弁花類	14	33	26		8	1
單子葉植物	7	25	27		2	
合 計	57	112	108	1	16	5

のも含まれている。本地域は現在、区画整理中であり裸地も多く、今後その種数は増加していくものと考えられる。

### おわりに

本公園の設計にあたっては、単に市街地の都市公園としての機能のみを考慮して計画をたてるのではなく、当該地に隣接して新設の小・中・高校があり、その学習環境として、また郷土の自然を学習し生徒自らその保護の重要性を理解する場としての公園にすることが望ましい。そのためには、現在ある自然林を最大限に生かした公園にすべきである。

### 引用文献

- 初島住彦, 1975. 琉球植物誌 追加・改訂版。 沖縄生物教育研究会, 沖縄。
- 初島住彦・天野鉄夫, 1977. 琉球植物目録。 でいご出版社, 沖縄。
- 島袋敬一, 1981. 琉球シダ植物目録。 ひるぎ社, 沖縄。
- 日越国昭・新城和治, 1987. 那覇市小禄金城俗称「上の毛」の植物。 沖縄県立博物館  
紀要, 第13号, 1-12.

## 那霸市小禄金城公園（予定地）の植物目録

	Pteridophyta シダ植物
	Schizaeaceae フサシダ科
<i>Lygodium japonicum</i> (Thunb.) Swartz	カニクサ
	Pteridaceae イノモトソウ科
<i>Pteris ensiformis</i> Burmann	ホコシダ
<i>P. fauriei</i> Hieronymus	ハチジョウシダ
<i>P. ryukyuensis</i> Tagawa	リュウキュウイノモトソウ
	Aspleniaceae チャセンシダ科
<i>Asplenium australasicum</i> (J. Sm.) Hooker	ミナミタニワタリ
	Dryopteridaceae オシダ科
<i>Cyrtomium falcatum</i> (Linn. fil.) Presl	オニヤブソテツ
	Thelypteridaceae ヒメシダ科
<i>Thelypteris acuminata</i> (Hourtt.) Morton	ホシダ
	Spermatophyta 種子植物
	Gymnospermae 裸子植物
	Cycadaceae ソテツ科
<i>Cycas revoluta</i> Thunb.	ソテツ
	Taxodiaceae スギ科
<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	スギ
	Pinaceae マツ科
<i>Pinus luchuensis</i> Mayr	リュウキュウマツ
	Angiospermae 被子植物
	Dicotyledoneae 双子葉植物
	Archichlamydeae 離弁花類
	Casuarinaceae モクマオウ科
<i>Casuarina equisetifolia</i> J. R. & G. Forst.	モクマオウ
	Ulmaceae ニレ科
<i>Celtis boninensis</i> Koidz.	クワノハエノキ
	Moraceae クワ科
<i>Ficus ampelas</i> Burm. f.	ホソバムクイヌビワ
<i>F. erecta</i> Thunb.	イヌビワ
<i>F. microcarpa</i> L. f.	ガジュマル

<i>Ficus pumila</i> L.	オオイタビ
<i>F. superba</i> (Miq.) Miq. var. <i>japonica</i> Miq.	アコウ
<i>F. virgata</i> Reinw. ex Blume	ハマイヌビワ
<i>Morus australis</i> Poir.	シマグワ
	Urticaceae イラクサ科
<i>Boehmeria nivea</i> (L.) Gaudich. f. <i>viridula</i> (Yamamoto) Hatusima	ノカラムシ
	Polygonaceae タデ科
<i>Polygonum chinense</i> L.	ツルソバ
	Amaranthaceae ヒユ科
<i>Achyranthes aspera</i> L. var. <i>rubro-fusca</i> Hook. f.	ムラサキイノコヅチ
<i>Alternanthera ficoides</i> R. Br. var <i>bettzickiana</i> Backer	ケツルノゲイトウ
	Ranunculaceae キンポウゲ科
<i>Clematis grata</i> Wall. var <i>ryukyuensis</i> Tamura	リュウキュウボタンヅル
	Menispermaceae ツヅラフジ科
<i>Stephania japonica</i> Miers var <i>australis</i> Hatusima	コバノハスノハカズラ
	Lauraceae クスノキ科
<i>Cinnamomum japonicum</i> Sieb.	ヤブニッケイ
<i>Persea thunbergii</i> (S. et Z.) Kostermans	タブノキ
	Pittosporaceae トベラ科
<i>Pittosporum tobira</i> (Thunb.) Aiton	トベラ
	Rosaceae バラ科
<i>Prunus campanulata</i> Maxim.	ヒカンザクラ
<i>Rhaphiolepis indica</i> (L.) Lindl. var. <i>insularis</i> Hatusima	オキナワシャリンバイ
<i>Rubus parvifolius</i> L.	ナワシロイチゴ
<i>R. sieboldii</i> Blume	ホウロクイチゴ
	Leguminosae マメ科
<i>Acacia confusa</i> Merr.	ソウシヅュ
<i>Alysicarpus nummularifolius</i> DC.	マルバダケハギ
<i>Desmanthus virgatus</i> Willd	タチクサネム
<i>Desmodium canum</i> Schinz & Thellung	タチシバハギ

<i>Desmodium triflorum</i> DC.	ハイマキエハギ
<i>Lespedeza cuneata</i> G. Don	メドハギ
<i>Leucaena leucocephala</i> (Lamk.) de Wit	ギンネム
<i>Mimosa pudica</i> L.	オジギソウ
<i>Pongamia pinnata</i> (L.) Pierre	クロヨナ
	Oxalidaceae カタバミ科
<i>Oxalis corniculata</i> L.	カタバミ
<i>O. corymbosa</i> DC.	ムラサキカタバミ
	Rutaceae ミカン科
<i>Murraya paniculata</i> (L.) Jack	ゲッキツ
<i>Toddalia asiatica</i> (L.) Lam.	サルカケミカン
	Meliaceae センダン科
<i>Melia azedarach</i> L.	センダン
	Euphorbiaceae トウダイグサ科
<i>Bischofia javanica</i> Blume	アカギ
<i>Breynia officinalis</i> Hemsl.	オオシマコバンノキ
<i>Glochidion zeylanicum</i> (Gaertn.) A. Juss.	カキバカンコノキ
<i>Macaranga ranarius</i> (L.) Muell. -Arg.	オオバギ
<i>Mallotus japonicus</i> Mull. -Arg.	アカメガシワ
<i>M. philippensis</i> (Lam.) Mull. -Arg.	クスノハガシワ
	Anacardiaceae ウルシ科
<i>Mangifera indica</i> L.	マンゴー
<i>Rhus succedanea</i> L.	ハゼノキ
	Celastraceae ニシキギ科
<i>Euonymus japonicus</i> Thunb.	マサキ
<i>E. tanakae</i> Maxim.	コクテンギ
	Aceraceae カエデ科
<i>Acer oblongum</i> Wall ssp. <i>itoanum</i> Hatusima	クスノハカエデ
	Elaeocarpaceae ホルトノキ科
<i>Elaeocarpus sylvestris</i> (Lour.) Poir.	ホルトノキ
	Malvaceae アオイ科
<i>Hibiscus tiliaceus</i> L.	オオハマボウ
	Theaceae ツバキ科
<i>Eurya emarginata</i> (Thunb.) Makino	ハマヒサカキ

	Guttiferae	オトギリソウ科
<i>Calophyllum inophyllum</i> L.		テリハボク
	Elaeagnaceae	グミ科
<i>Elaeagnus thunbergii</i> Serv.		タイワンアキグミ
	Alangiaceae	ウリノキ科
<i>Alangium chinense</i> Rehd ver. <i>nipponicum</i> Masam.		シマウリノキ
	Myrtaceae	フトモモ科
<i>Psidium guajava</i> L.		バンジロウ
	Araliaceae	ウコギ科
<i>Schefflera octophylla</i> (Lour.) Harms		フカノキ
	Umbelliferae	セリ科
<i>Centella asiatica</i> (L.) Urban		ツボクサ
	Matachlamydeae	合弁花類
	Myrsinaceae	ヤブコウジ科
<i>Ardisia sieboldii</i> Miq.		モクタチバナ
<i>Maesa tenera</i> Mez		シマイズセンリョウ
	Primulaceae	サクラソウ科
<i>Anagallis arvensis</i> L. f. <i>caerulea</i> Baumg.		ルリハコベ
	Sapotaceae	アカテツ科
<i>Planchonella obovata</i> (R. Br.) Pierre		アカテツ
	Ebenaceae	カキノキ科
<i>Diospyros ferrea</i> Bakh.		リュウキュウコクタン
	Oleaceae	モクセイ科
<i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.		ネズミモチ
	Asclepiadaceae	ガガイモ科
<i>Tylophora tanakae</i> Maxim.		ツルモウリンカ
	Convolvulaceae	ヒルガオ科
<i>Ipomoea acuminata</i> (Vahl) Roem. et Schult.		ノアサガオ
	Boraginaceae	ムラサキ科
<i>Ehretia acuminata</i> R. Br. var. <i>obovata</i> Johnst.		チシャノキ
<i>E. microphylla</i> Lamk.		フクマンギ
	Verbenaceae	クマツヅラ科
<i>Callicarpa japonica</i> Thunb.		オオムラサキシキブ
var. <i>luxurians</i> Rehd.		
<i>Clerodendron trichotomum</i> Thunb.		ショウロウクサギ
var. <i>esculentum</i> Makino		

<i>Lantana camara</i> L. var. <i>aculeata</i> Moldenke	ランタナ
<i>Phyla nodiflora</i> Greene	イワダレソウ
<i>Premna corymbosa</i> (Burm. f.) Rottb. et Willd. var. <i>obtusifolia</i> (R. Br.) Fletcher	タイワンウォクサギ
<i>Verbena officinalis</i> L.	クマツヅラ
<i>Vitex trifolia</i> L.	ミツバハマゴウ
Solanaceae	ナス科
<i>Solanum alatum</i> Moench.	テリミノイヌホウズキ
Plantaginaceae	オオバコ科
<i>Plantago asiatica</i> L.	オオバコ
Rubiaceae	アカネ科
<i>Gardenia jasminoides</i> Ellis	クチナシ
<i>Paederia scandens</i> (Lour.) Merr.	ヘクソカズラ
<i>Psychotria manillensis</i> Bartl. ex DC.	ナガミボチョウジ
<i>Tarenna gyokushinkwa</i> Ohwi	ギョクシンカ
Caprifoliaceae	スイカズラ科
<i>Viburnum odoratissimum</i> Spr.	サンゴジュ
var. <i>awabucki</i> (Koch) K. Koch	
Compositae	キク科
<i>Ageratum boustonianum</i> Mill.	ムラサキカッコウアザミ
<i>Aster subulatus</i> Michx.	ホウキギク
<i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> Sherff	タチアワユキセンダングサ
<i>Blumea lacera</i> DC. var. <i>blumei</i> DC.	サケバコウゾリナ
<i>Cirsium brevicaule</i> A. Gray	シマアザミ
<i>Emilia sonchifolia</i> A. DC.	ウスベニニガナ
<i>Erigeron canadensis</i> L.	ヒメムカシヨモギ
<i>E. sumatrensis</i> Retz.	オオアレチノギク
<i>Farfugium japonicum</i> (L.) Kitamura	ツワブキ
<i>Lactuca indica</i> L.	アキノノゲシ
<i>Youngia japonica</i> (L.) DC.	オニタビラコ
Monocotyledoneae	单子葉植物
Gramineae	イネ科
<i>Bambusa multiplex</i> (Lour.) Rauschel	ホウライチク
<i>Bothriochloa parviflora</i> Ohwi var. <i>spicigera</i> Ohwi	リュウキュウヒメアブラスキ

<i>Brachiaria mutica</i> (Forsk.) Stapf	バラグラス
<i>Dichanthium annulatum</i> Stapf	ヒメオニササガヤ
<i>Echinochloa colona</i> Link	ワセビエ
<i>Eleusine indica</i> Gaertn.	オヒシバ
<i>Imperata cylindrica</i> Beauv. var. <i>major</i>	チガヤ
(Nees) C. H. Hubbard et Vaughan	
<i>Misanthus sinensis</i> Anders.	スキ
<i>Oplismenus compositus</i> (L.) Beauv.	エダウチチヂミザサ
<i>Panicum repens</i> L.	ハイキビ
<i>Paspalum conjugatum</i> Berg.	オガサワラスズメノヒエ
<i>P. urvillei</i> Steud.	タチスズメノヒエ
<i>Pleioblastus linearis</i> (Hack.) Nakai	リュウキュウチク
<i>Sporobolus fertilis</i> (Steud.) W. D. Clayton	ネズミノオ
<i>Zoysia japonica</i> Steud.	シバ
	Cyperaceae カヤツリグサ科
<i>Carex brunnea</i> Thunb.	コゴメスゲ
<i>Cyperus brevifolius</i> Hassk.	アイダクグ
<i>C. polystachyos</i> Rottb.	イガガヤツリ
<i>C. rotundus</i> L.	ハマスゲ
<i>Fimbristylis dichotoma</i> Vahl	クグテンツキ
<i>F. ovata</i> Kern	ヤリテンツキ
	Araceae サトイモ科
<i>Alocasia odora</i> (Roxb.) C. Koch	クワズイモ
	Liliaceae ユリ科
<i>Dianella ensifolia</i> L.	キキョウラン
<i>Liriope tawadae</i> Ohwi	ヤブラン
<i>Sansevieria nilotica</i> Bak.	チトセラン
<i>Smilax sebeana</i> Miq.	ハマサルトリイバラ
	Amaryllidaceae ヒガンバナ科
<i>Crinum asiaticum</i> L.	ハマオモト
	Musaceae バショウ科
<i>Musa × sapientum</i> L.	バナナ
	Zingiberaceae ショウガ科
<i>Alpinia speciosa</i> (Wendl.) K. Schum.	ゲットウ